

練馬区立南町小学校



南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成30年10月31日

校長 福田 俊彦

「なすことによって学ぶ」に視線が

校長 福田 俊彦

「おはようございます。」と挨拶をする子供との出会いから始まる一日をたくさんもつことができています。本校の卒業生である開進第二中学校の生徒との挨拶があります。本校の卒業生でない生徒との挨拶もあります。出勤をする地域の方々、お子さんを幼稚園・保育園に送る方々、散歩をされている方々との挨拶もあります。どの挨拶も心を元気にするエネルギーをもってると実感するところです。

さて、「TOKKATU」という言葉を聞かれたことがあるでしょうか。外来語ではありません。日本から諸外国に輸出された言葉「特別活動」のことです。諸外国では、日本型の教育が子供の成長に大きな効果があることを捉え、教育活動に「特別活動」を取り入れようとしています。

その中でも注目されたのが清掃や給食の時間の活動です。自分たちの生活の場である学校を、自分たちが使っている場所を自分たちできれいにする。みんなで配膳、片付けなどを進め、楽しい時間を作り出す。それらの活動に教育的な価値を生み出していこうとしているんです。日本の教育ではこの清掃や給食の時間を長らく取り入れてきました。でも、これは大人の考えです。子供たちは清掃や給食の時間をどのように考えているのでしょうか。子供の考えを知りたく、聞いてみました。

「自分たちで清掃をしたり、給食の準備をしたりすることをどう考えますか。」の質問に、子供たちが答えます。「時間がかかることもあるけれど、自分たちですることによって、将来役に立つことがあります。」「自分一人ではできないこともみんなで助け合ってできます。」「1年生からしてきて、めんどうだなど思うこともありました。でも、役に立つことを身に付けられます。」「他の用事があってできない時、友達が代わりにしています。そんな時、次に自分がする時のことを考えます。」「他の人が困らないようにとしようと考えます。」子供との話の中で気付きました。学校で経験し、積み重ねてきたことが、他の場面で活用できているということです。汎用力です。積み重ねてきたひとつの学びを広げていく力を子供たちはもっています。きっと、諸外国は南町小学校の子供たちが感じていること、考えていることを求めているようにも思えました。

南町小学校では「なすことによって学ぶ」が教育として機能していることではないでしょうか。学校は、学習と生活を支える活動が両輪となって、子供たちの成長に関わっているところです。子供たちの生活を支えている活動について、ご家庭でも話題にしていただければ幸いです。